RA'10　武蔵野美術大学助手研究発表　芸術文化学科研究室 森啓輔 企画

The Works of Research Associates 2010　Planed by Keisuke Mori, Department of Arts Policy and Management

シンポジウム

涵養（かんよう）の態度、垂直の思考

Symposium "The attitude as cultivation and the thought of vertical descent"

石川 卓磨　ISHIKAWA Takuma
ゲスト / 美術作家

今井 俊介　IMAI Shunsuke
油絵学科研究室 助手 / 美術作家

亀井 佑二　KAMEI Yuji
空間演出デザイン学科研究室 助手 / 画家

田中 正之　TANAKA Masayuki
本学教授 / 西洋近現代美術史

冨井 大裕　TOMII Motohiro
彫刻学科研究室 助手 / 美術作家

森 啓輔　MORI Keisuke
芸術文化学科研究室 助手 / 日本近現代美術

2010.1.18 mon

16:30 ～ 17:50

武蔵野美術大学 2号館205教室

RA'10 武蔵野美術大学助手研究発表

開催日程 | 2010年1月12日（火）— 1月21日（木）日曜休　10:00－18:00　1月12日（火）、1月16日（土）は20:00まで

入館料 | 無料

会場 | 武蔵野美術大学美術資料図書館、2号館gFAL、FAL

主催 | 武蔵野美術大学美術資料図書館

企画 | 武蔵野美術大学助手

URL | http://www.musabi.ac.jp/ra/ra10/

Musashino Art University Museum & Library

シンポジウム「涵養の態度、垂直の思考」について　About the Symposium “The attitude as cultivation and the thought of vertical descent”

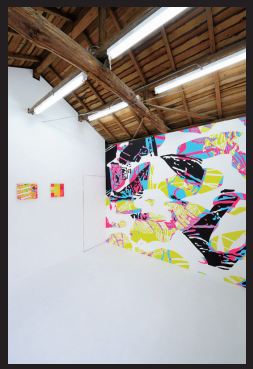
本シンポジウムでは、「RA’10 武蔵野美術大学助手研究発表」に参加している助手の作品を起点として、20代後半から30代の作家の作品表現を中心とした議論がなされます。そこでは、リーマン・ショックなど昨今の美術を取り巻く社会情勢に触れながら、現代の作家が抱える問題の共有と今後の方向性についての模索がなされます。本展に参加する助手の多くは、高等教育機関の研究職でありながら、一方で学内外にて作品発表を続ける美術作家という側面も持ち合わせています。そのような助手がもつ可能性とは、果たしてどのような制作態度においてあり得るのでしょうか。

例えばその手がかりの一つは、社会と作家との関係性に顕著に現れているように思われます。近年においては、国公立の大学の独立行政法人化や、政府省庁、企業との産官学の協同体制など、大学はより社会へと開かれることが求められています。美術の分野においても同様に、アートマーケットの隆盛や美術館の市民に向けられた教育普及活動など、社会との積極的な繋がりは作家にとって重要な役割として認知されはじめています。しかしながら美術大学とは、時に過剰な市場原理とゆるやかな接点を保ちつつ、一方で自身の思考を垂直方向に深めることが可能な環境であるといえるかもしれません。水が地表にゆっくりと、しかし確実に浸透していくさまを示唆する「涵養（かんよう）」。それは、鑑賞者という他者の欲望に無意識かつ無批判に応答する瞬発力ではなく、自身の忍耐と信念をもって持続的な活動を行う助手の制作態度にふさわしい言葉であるように思えます。

本シンポジウムにおいて、作家それぞれが現代における制作の困難さに向き合いながらも、積極的な意義を見出すことが、学生にとっても将来にわたり不断に継続される行為として制作が自覚されるための契機となりえることを願っています。

森 啓輔（芸術文化学科研究室 助手）

撮影：柳場大　Masaru Yanagiba



撮影：田中雄一郎　Yuichiro Tanaka

1　2　3　4

1. 亀井 佑二　《神社と通学路》　紙本彩色・900×1900mm・2009
2. 石川 卓磨　《重ね合わせ》　C-Print、木、麻・600×450mm・2009
3. 冨井 大裕　《roll（27 paper foldings）#4》　折り紙、ホッチキス・275×350×230mm・2009
4. 今井 俊介　Installation view「emptiness」遊戯室（中崎透＋遠藤水城）・2008

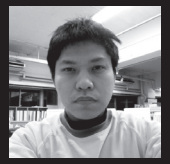
パネリスト 紹介　Panelist introduction

石川 卓磨　ISHIKAWA Takuma

1979年生まれ
2004年　武蔵野美術大学 大学院造形研究科美術専攻油絵コース 修了
作品内に複数のコンテクストを統合－圧縮することを目的とした写真作品を発表。2009年にgFALにて「高嶋晋一 石川卓磨 FLIGHT DURATION」、また第1回所沢ビエンナーレ美術展「引込線」（西武鉄道旧所沢車両工場・埼玉）に参加。

今井 俊介　IMAI Shunsuke

1978年生まれ
2004年　武蔵野美術大学 大学院造形研究科美術専攻油絵コース 修了
花やポルノグラフィなどインターネットに流通する図像をもとに、それらを重層化させた壁画や絵画を一貫して制作し続けている。主な個展に2008年の「emptiness」（遊戯室（中崎透＋遠藤水城）・茨城）、2007年「empty eyes」（ZENSHI・東京）など。



亀井 佑二　KAMEI Yuji

1977年生まれ
2002年　武蔵野美術大学 造形学部空間演出デザイン学科 卒業
2009年　慶應義塾大学 大学院医学研究科修士課程 修了
研究テーマとして「知ること」を掲げ、身体や風景を対象とした絵画を制作。主な個展に2009年に行われた「私を見える」（四谷ひろば・東京）など。

田中 正之　TANAKA Masayuki

1963年生まれ
1990年　東京大学 大学院人文科学研究科修士課程 修了
国立西洋美術館主任研究官を経て現職。キュレーターとして、『ピカソ：子供の世界』展（国立西洋美術館、'00年）、『アメリカン・ヒロイズム』展（国立西洋美術館、'01年）、『マティス』展（国立西洋美術館、'04年）、『ムンク展』（国立西洋美術館、'07年）などを担当。

冨井 大裕　TOMII Motohiro

1973年生まれ
1999年　武蔵野美術大学 大学院造形研究科美術専攻彫刻コース 修了
日用品の使用と原理的な彫刻の両立を試みる希有な作家として知られる。これまでにswitchpoint、art&riverbank、ギャラリー現等での個展、及びグループ展多数。2009年、gallery αMにて「変成態 ― リアルな現代の物質性」に参加。

森 啓輔　MORI Keisuke

1978年生まれ
2001年　早稲田大学 人間科学部人間健康科学科 卒業
2009年　武蔵野美術大学 大学院造形研究科美術専攻芸術文化政策コース 修了
日本近現代美術を専門としてキュレーション、美術批評を行う。連続企画展として2009年よりswitch pointにて「彫刻、何処でもない場所のカケラ」など。